

# 朝日庄内の風

令和7年 11月 28日 第35号  
朝日庄内森林生態系保全センター

## CONTENTS

着任の挨拶.....	2
庄内森とみどりのフェスティバルに出展しました...	3
3年ぶりの現場巡視.....	4
今シーズンの現場業務を振り返って.....	6
コラム：市販キノコの野生の姿.....	8

朝日山地のブナ林内に生息する珊瑚＝サンゴハリタケ  
2024.10.26 朝日町 頭殿山（撮影：有本 実）



## 所長の独り言

朝日庄内森林生態系保全センター所長 岩間 由文

10月1日付けの人事異動により、当センターのメンバーが交代となりました。転出された工藤さん、いろいろとありがとうございました。

暑すぎる夏が終わったと思ったら、あっという間に冬の装い。それでも今年の紅葉は鮮やかだったという声も聴きます。この時期一番の注目はクマの出没。耳を塞ぎたくなるような痛ましい事故もあり、心穏やかではありません。巡視に出る際も、車から降りるときにまず警戒、歩きながらも周囲を見回し、緊張しながら、そして音を立てながら歩きます。

今年はブナとドングリが凶作だったと伝えられています。東北森林管理局が発表したブナの開花・結実調査は、管内国有林はどの県も大凶作。実際奥山に入っても、今年のブナの実やドングリは落ちた形跡さえ見られません。朝日山地は広大なブナ林を擁していますが、クマは当センターの事務所がある鶴岡市内にも出没しています。

センター職員の一言で気がつきました。「今年はキイチゴやクワの実も実りが悪かった」。確かに今年の猛暑で山の木々も相当なストレスがかかっていたのかもしれませんが。

浅学で恥ずかしいばかりですが、ブナは5～7年の周期、ドングリは2～3年の周期で豊作になると聞いていましたが、今年は双方の凶作の周期がちょうど重なったのでしょうか。

一方で、最近気になる報道を耳にしました。ブナの豊作周期が短くなり、それがクマの個体数に影響している可能性があるとのこと。たしかに、豊作といわなくても、以前に比べてブナの実を目にする機会は増えてきたような気はしていました。

研究機関でない私共は、森林と動物の関係を調査しているわけではありませんが、いままで考えたこともないような影響がある可能性があるを知り、森林と生き物たちの関係の不思議さを改めて感じるところです。



紅葉したヤマウルシの葉

## 着任の挨拶

主任主事 安部 俊介

今年10月に着任した安部と申します。地元は仙台ですが、小学生の頃に蔵王少年自然の家で開催された「森と湖に親しむ集い」に参加したことがきっかけで、自然観察に興味を持つようになりました。その後、植物標本を毎年継続して作成し、仙台市児童・生徒理科作品展にも出展されるまでになりました。学生時代は、山形大学教育学部で主に理科教育を学習していましたが、農学部の農場・演習林での実習も受講するために鶴岡市や旧朝日村にも足を運んでいます。東北森林管理局に入庁してからは、主に経理事務を担当していましたが、このたび希望していた朝日庄内森林生態系保全センターに配属され、大変嬉しく思っております。まずは、地域の自然環境や動植物について理解を深め、センターの一員として少しでも貢献できるよう知識を広げていきたいと思っております。どうぞご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



黄葉のブナ林での1コマ



## 庄内森とみどりのフェスティバルに出展しました

当センターではおなじみの「庄内森とみどりのフェスティバル」に今年も参加しました。10月18～19日の2日間、つるおか大産業まつりと合同開催で、今年は鶴岡市合併20周年記念ということもあり大変な賑わいを見せていました。当センターでは庄内森林管理署と合同で、木工クラフト、葉っぱのしおり作り、生き物の缶バッジ作りを行いました。こちらも大盛況。用意した材料がいくつか底をついてしまうほどでした。それでは現場の様子をのぞいてみましょう。

木工クラフトブースでは、職員が山から集めてきた材料に飾りつけをしてもらいます。



…おや、名作ぞろいですね。皆さんのおかげで、森に落ちていた木の実ひとつひとつが主役になって輝きました。

しおり作りはどうでしょう。様々な葉っぱを用意していましたが、葉ごとの形や色の違いを観察し、皆さん上手に利用されています。「これって何の葉っぱ？」と確認しながら作製し、こだわりの逸品ができあがりました。

最後は缶バッジ作り。朝日山地周辺で見られる生き物たち全38種の写真を缶バッジにし



### 人気があった生き物たち



### マニアックなものも…







どんな会話をしているのでしょうか？

ました。「私キツネ見たことあるよ！」「これはカメムシ？でも背中にハートがある！」「きれいな蝶だね、へえ、ヒメシジミって名前か」「マダニなんて選ぶ人いるの？え、1つ出た！？」なにやら楽し気な声が聞こえてきます。職員から生き物の話をすると、参加者の皆さんからも様々な感想やエピソードが飛び出し、会話が弾みました。

昨今、自然と人との付き合い方も変化していると思いますが、葉っぱや木の実に触れて楽しむ参加者の皆さんを見て、自然と触れ合ったり、知らないものと出会ったりすること

が、人の心を豊かにすると再認識しました。山に行かずともこうしたイベントで遊ぶことができますので、機会があればまた足を運んでください。お待ちしております。(玉川)

## 3年ぶりの現場巡視

### 10月21日 畑場峰(大江町)へ

小雨まじりの肌寒い朝。標高1,000mを超える畑場峰での保護林の看板撤去作業に同行しました。途中、植物、きのこ、鳥類などの自然観察をしながら、黄葉の始まったブナ林の中を歩くこと2時間。畑場峰では、昨冬の豪雪に割られてしまった看板が無残にも横たわっていました。無事に撤去を終え、ブナ林の中で昼食を済ませた後、イベントの木

エクラフトで使用する松ぼっくり採取も行いながら下山しました。実は、前月

まで秋田市内の東北森林管理局経理課での勤務だったため、山に入るのは約3年ぶり。久しぶりの登山にリフレッシュされた気分で、翌日になっても不思議と疲れは残りませんでした。



ミネカエデの黄葉が見頃でした



豪雪で大きく割れた看板



お馴染みのヒラタケ



有名な毒茸のクサウラベニタケ



出汁取専用のアングロタケ

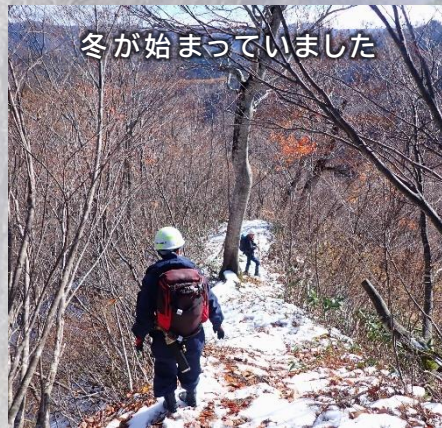


## 11月12日 紫ナデ(西川町)手前で「下山の決断」

この時期には珍しい晴天で、雪を被った障子ヶ岳と、黄金色に染まったカラマツの黄葉が織りなす初冬の風景が広がっていました。落ち葉の積もった急斜面を登っていくと、葉を落としたブナ林に日差しが降り注ぎ、汗ばむほどの暖かさとなりました。標高 700m 付近から登山道には雪が現れ、さらに上へ進むと、一気に冬景色となりました。小枝を掴みながら登ることはできても、下りの斜面では滑落の危険があるため、標高 790m 地点で「勇気ある撤退」をすることになりました。1,130m 付近に設置していた看板の撤去は断念することとなりましたが、登山口付近に設置していたセンサーカメラやボイストラップの撤収作業は無事に終了。わずか数百メートルの標高差で、秋と冬を歩き分けたような貴重な経験ができ、この日は今季最後の作業となりました。(安部)



古くなった小看板も撤去しました



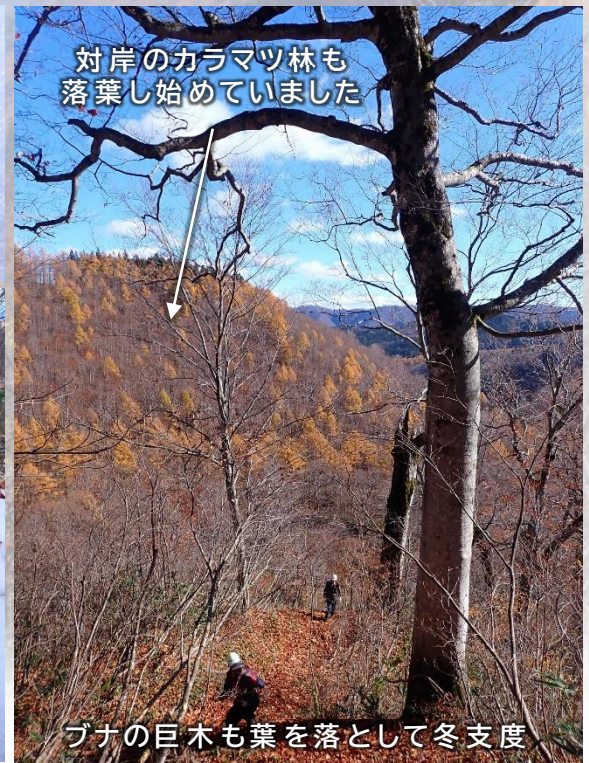
冬が始まっていました



紅葉のオオイワウチワ



雪に残るツキノワグマの足跡



対岸のカラマツ林も落葉し始めていました

ブナの巨木も葉を落として冬支度

2か月前、気持ちよさそうに花を咲かせていたオトコエシも種をつけ、今年の活動を終わっていました



2025.9.9



2025.11.12



## 今シーズンの現場業務を振り返って

9月半ばまでうだるような暑さだった庄内地域ですが、リー！リー！！と爆音で鳴いていたアオマツムシはいつの間にか静まり返り、ツグミやコハクチョウなどの冬鳥達で賑やかになってきました。そんな短い秋に急かされながら、積雪前にボイストラップとカメラトラップの調査を無事終了し、朝日山地森林生態系保護地域の看板と併せて機材を撤収してきました。これで今シーズンの現場業務は一区切りつきましたので、ここではボイストラップの手法を簡単にご説明してから、調査の合間に撮りためていた森林生態系にまつわるスナッフ写真を3点、振り返ってご紹介します。



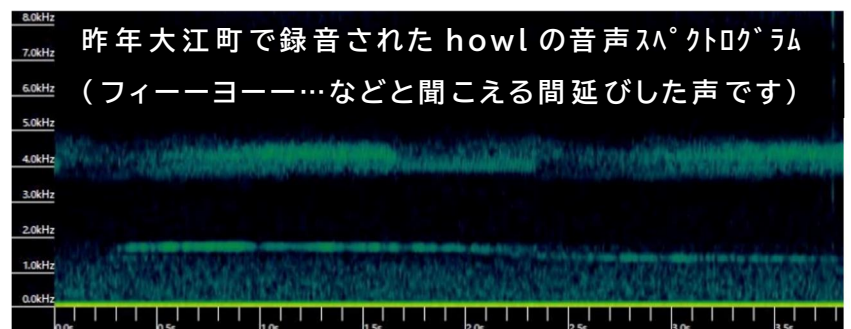
黄金色に染まるブナ林でボイストラップを撤収



紅葉を目に焼き付けつつ看板を撤収

### ボイストラップ法

この手法は、ニホンジカが発情期を迎える10月頃に録音機を現場に設置して、得られた音声データからシカの鳴声を識別し、その鳴き方から設置箇所周辺のシカの侵入状況を把握する、というものです。令和元年度より毎年、朝日山地周辺地域の10箇所で実施してきましたが、そのうち5箇所から雄シカの howl という鳴声が検出されています。これは雄同士で互いの位置を主張する際に発する咆哮で、この鳴声が散発的に録音されているため、朝日山地はシカの『侵入初期段階』であると推察されています。この howl の録音頻度が高まると同時に、moam という縄張り内の優位な雄のみが発する咆哮が録音されると、『定着初期段階』へ移行した可能性が高いと示唆されますが、今の所 moam は録音されていません。今年は9月25日から11月12日にかけて録音機を設置しましたが、果たして moam が初めて録音されるか否か、これから受注コンサルタント業者によるデータ解析が始まります。



### 調査の合間のスナッフ写真

まず1点目の写真は、東大鳥川で見つけたオニグルミのクマ棚です①。クマ棚と言えばブナやミズナラに見られる印象ですが、今年の東北地方のブナは大凶作で、ミズナラのドングリもほとんど見かけませんでした。そんな中、オニグルミは例年通り夏には青い実がたわわに実っていましたので、ツキノワグマにとっては貴重な食料だったのでしょう。オニグルミのクマ棚は鶴岡市の高館山で



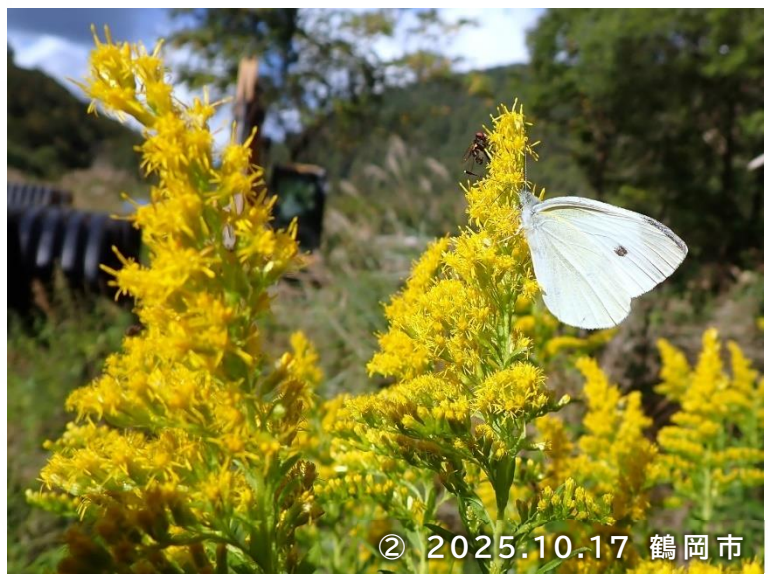
も見つけました。ここは主にブナとコナラが生育していますが、やはりどちらも凶作だったのです。私が今年朝日山地～月山一帯で見つけたクマ棚は、オニグルミか集落に人が植えたクリのどちらかでした。あくまでも私見の憶測にすぎませんが、オニグルミは川沿いに多く自生していますので、河川は空腹のクマが山から集落に下りてくる移動経路としてうってつけなのかもしれません。

2点目は、これも東大鳥川で見つけたセイタカアワダチソウと、そこに訪花したモンシロチョウです②。背後にはヒューム管とバックホウが写りこんでいますが、ここは溪畔林内に開設された工事用資材置き場になっています。こうした伐開地には車両に種子が付着するなどして外来種の植物が侵入しやすく、注意が必要です。この川沿いの道路を上流に向かうと大鳥池の登山口に至りますが、幸いまだオオハンゴンソウの生育は確認していません。ただし、このセイタカアワダチソウをはじめヒメジョオンやイタチハギなどの外来種は普通に見られますし、何ならこのモンシロチョウすら江戸時代以前に日本に移入された外来種と考えられています。外来種に目を向けると本当に際限が無いため、目下の対策としては外来生物法で『特定外来生物』に指定されている種の駆除に専念するのが現実的でしょう。前号でもご紹介したオオハンゴンソウについては、当センターで引き続き目を光らせていきます。

最後の3点目は、林道脇に散乱していた雄のヤマドリの羽根で、八久和峠付近で見つけました③。60cm程の長い尾羽や風切羽、胸毛など、抜け落ちた全ての羽根の軸がきれいに残っていたため、猛禽類に捕食されたものと思われます。テンやキツネなどの肉食獣が鳥を食べると羽軸が噛み切られたりしてグシャグシャになりますが、猛禽類が鳥を食べる時は羽根を嘴でむしり取ってから肉を食べるため、羽軸がきれいに残るのです。この食痕を見つけた瞬間、よしよし…とニヤリとしながら撮影しました。ヤマドリを襲える程の大きな猛禽類、となるとイヌワシかクマタカの可能性大です。生態ピラミッドの頂点に立つ彼らの食痕が見られるという事は、健全な森林生態系が維持されている証なのです。(有本)



① 2025.10.17 鶴岡市



② 2025.10.17 鶴岡市



③ 2025.11.7 鶴岡市



## コラム 市販キノコの野生の姿 (文・撮影：有本 実)

現在スーパーなどで売られているキノコは、当然ですが元々野外に生育していたものを栽培化したものです。皆さんが普段食べている市販のキノコが、野外では本来どんな姿なのか、以下6種類の写真をご紹介します。全種に共通することは、天然物はとにかく大きくて香りが強くて味が濃くてうまい！ということ。4ページ目のヒラタケも、傘の長径は10数cmありました。天然物で一番驚かれるのはエノキタケでしょうか。晩秋～早春、河川敷のヤナギ類や民家の柿の木など意外と身近な所に生えますので、これから探してみてもいいかもしれません。傘にヌメリがあって絶品ですよ。



発行：林野庁 東北森林管理局 朝日庄内森林生態系保全センター

〒997-0015 山形県鶴岡市末広町 23-37 TEL: 0235-26-1841

<https://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/syo/asahi/>

